

讀書

# SUNDAY NIKKEI

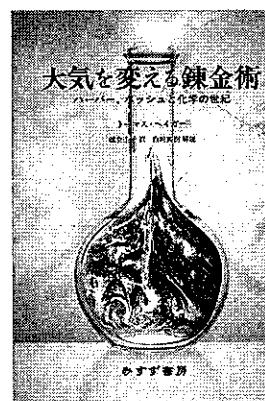
い込み、ただ吐きだしている。空氣の8割を占める窒素は毒でも薬でもなく、何の働きもしていない。しかし、その窒素がアンモニアに変化することで肥料となり、食べ物となりて人類の生存を支えていることを、そして、資源に恵まれなかつたために、ドイツが窒素ガスからアンモニア合成に挑み、それに成功し、ドイツ化学産業の黄金時代を築き、それが、ナチスの活動を支えた歴史を、その技術を生み出した二人の技術者ハーバーとボッシュの壮絶な人生を軸にして、この本は描ききつっている。評者は、かつて化学を専門にしていたので、ハーバー・ボッシュ

空素にまつわる「光と影」描いた物語

法についても相当な知識を持ち合わせていた筈だが、この本を読むまで、アンモニア合成がなければ、地球上の人口の半分以上が飢えてしまうことを考えたことがなかった。この物語は、まず、窒素の物語なのだ。

超人的な努力でアンモニア合成を成功させ、人類に福音をもたらした二人だが、一方で、ハーバーは毒ガスの製造と使用にも携わり、ボッセンユはIGファルベンという巨大化学生トラストの取締役会会長としてナチスの戦争政策に積極的に協力した。しかし、やがてヒトラーに追わ

白い躍动感のある著作だが、ひどくだけ残念なのは、日本語タイトルの意味が理解しにくいことである。例えば、原題に沿って「空氣を人類のパンに変える鍊金術」というようなタイトルにする」ことを評者は提案したい。



トーマス・ヘイガー著

三

彼らの作り出したアノモニアもまた、その量が膨大であるがために環境問題をひきおこしていることに著者は注意を喚起している。今後、バイオガソリンが大量に生産されるようになれば、これまで以上に大量のアンモニアが合成され、地球には排出されるだろう。南米で発見された自然の産物の硝石を爆薬と肥料のために奪い合った歴史からはじまるこの著作は、歴史としても興味深いが

》 産業技術総合研究所  
安全科学研究部門長 中西 準子

## 大氣を変える鍊金術

・3400円)。  
▼著者は米国の医化学系ジ  
ヤーナリスト。医微生物学  
と免疫学を修めたのち、米  
国立癌研究所の広報担当を  
へてフリー・ランスライター  
になつた。

これに対し経済産業省は今年4月に「水ビジネス国際展開研究会報告書」をまとめた。その中にで2025年には30兆円あまりに成長すると見込まれる民間による世界の上下水道事業のうちの6%、1・8兆円市場を日本企業が獲得することを目指すとしている。こうした動きは首相直轄の国家戦略プロジェクト委員会におけるインフラ輸出の枠組みに取り込まれ、官民一体となって推進される見込みである。

●官民一体で推進

●官民一体で推進  
日本では、水資源の豊富さから、水の利用が十分である。しかし、人口増加や経済発展により、水需要が増加の一途を辿っている。特に、都市部での水需要は年々増加の一途を辿り、水不足の問題が深刻化している。一方で、農業用水も重要な要素であり、灌漑技術の進歩によって水効率が向上している。また、水資源の有効活用と節水意識の醸成が、水問題の解決に向けた取り組みとして注目されている。

## 拡大する水ビジネス

## 安定供給の構築、課題

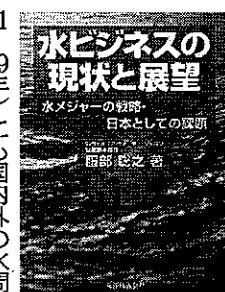
A black and white illustration depicting a somber scene. In the center, a person lies on their back on a dark, textured surface, possibly a bedsheet or a shroud. Their head is turned slightly to the left, and their hands are clasped near their chest. Several other figures are visible around them: one person is leaning over the central figure, another is standing to the right holding a long object, and others are partially visible in the background. The style is graphic and dramatic, using high contrast and shading to emphasize the emotional weight of the scene.

前からそれなりの実績をすでに積んでいるところもある。水問題は人権問題から環境問題を経てビジネス問題としてメディアに登場する機会が増えてきている。『ミネラルウォーター・ショック』(矢羽野薰訳、河出書房新社・同)の著者エリザベス・ロイト氏は「石油がなくて生きていけるが、水がなければ生きられない」と言い切る。我々は、安全な水の恵みを安定して享受できる社会を世界中に構築していくかねばならない。そのためには、官による独占だけでも民間による利潤追求のみでなく、両者をバランスよく組み合わせ、限られた資源で実現していく、広い意味での「マネジメント技術」が求められている。

は「講演」の第一作で、集著者。杉原社長が出席した。会場は東京にて、太田記念館にて開催された。著者や読書会、ビジネス業界が、おもに参加してあるが、おもに講演を聽く。また、意見交換をする。この会は、毎月開催される。

を  
読み解く

東京大学教授  
沖 大幹



いつた檄文を寄せている。ただし、ビジネスの海外展開に技術的優位性がどの程度必要かに關して、中村氏の歯切れは悪い。

「電」  
出版関  
「中抜」